

新任トップインタビュー 福山コンサルタント 福島宏治社長

新任
トップ
インタビュー

新コア事業創出し、持続的成長企業へ

(株)福山コンサルタント 福島宏治 社長



新任トップインタビュー

ふくしま こうじ 福島宏治 社長

宮崎県延岡市出身。1959年2月12日生まれ。55歳。82年3月北九州市立大学商学部経営学科卒。83年4月福山コンサルタント入社。2002年7月同社総務本部経理部長。07年8月(株)福山リサーチ&インキュベーションセンター社長(現任)。同10月福山コンサルタント執行役員企画室長兼監査室長。09年9月同社取締役経営企画室長。11年10月同社常務取締役経営企画室長。13年7月同社常務取締役戦略企画室長。趣味は水泳と釣り

―9月26日に社長就任しました。建設コンサルタント業界では技術系出身の社長が多い中、福島社長は財務のご出身です。福島 確かに業界内では珍しいでしょう。しかし、当社は昨年度からスタートした6カ年の第3次長期プランで、非公共事業の新たなコア事業の創出に取り組んでいますので、同業他社と異なる、ということを前向きに捉えています。また今後、業種の枠を超えて新しい価値を創造していく上でも、〇〇系出身という垣根は、経営においては意味が薄くなっていくでしょう。―新たなコア事業の構想は。福島 現在、事業の選定を進め、M&Aを主な手段とし、期首に5億円の予算を組みました。将来的にグループ年商100億円を目指しており、既存の建設コンサルタント業で60億円を維持し、新コア事業は40億円規模への拡大を見込んでいます。公共事業は現在、老朽化した橋やトンネルの保守点検、防災・減災対策などの需要が拡大していますが、いずれピークアウトを迎えます。既存事業に関

しても技術のバリエーションをつなげて領域を広げていく方針です。重点政策で「地方創生」が掲げられていますが、市民が当事者として参画する地域づくりに、当社の知見を役立てることができるとは、と思案しています。

―第3次長期プランでは、新ビジネスの創出と同時に、既存事業の強化を図る「デュアルモード方式」を採っています。福島 受注量の増加に対応すべく、生産力と生産体制の向上を図るものです。9月に事業統括本部を組成し、その下に部門本部と地域本部を置くマトリックス型運営体制を本格稼働させました。人員配置の変更などの一定の権限を本部に委ね、需要に直結する形で、全社的な組織力と連携力を強化しています。

また顧客からの評価が高く、かつ労働時間効率の優れた業務

遂行を行ったグループのマネジメント手法を全社で共有化する「ベンチマーク研修会」を実施しているほか、新入社員育成プログラムとして、多角的な視点を養うべく4年間で異なる2つの事業部門・地域へのOJT配属をしています。

―女性の活躍推進にも取り組んでいますか。

福島 現在、当社の女性技術者は全体の1割程度ですが、第3次長期プラン中に2割まで増員する計画です。昨年度の業務では、女性技術者がその感性を発揮し、国土交通省から優秀表彰を受けました。

また、女性だけで構成する「ふくやまプラス」というチームがあり、業務上はもちろん日常の職場環境整備の提案等の活動も行っています。

―最後に抱負をお願いします。福島 当社が目指すべき進化的方向は定まっていますので、私の役割は一步先の視線を持ち組織をリードすること。組織も個人も常に学習し成長を続ける企業集団を目指しています。